

ごあいさつ

平和憲法をもったときの喜びを次の世代に引き継ぎたい

原爆遺族会会長・長崎県九条の会共同代表

城山憲法九条の会共同代表 下平作江

城山憲法九条の会も三周年を迎えました。これは本当に皆様が支えてきてくださったおかげです。心から感謝申し上げます。

忘れもしない一九四五年八月十五日、ラジオから流れてくるブーバーガーという雑音の間をぬってとぎれとぎれに聞こえてくる陛下のお言葉。私たち子供にはむずかしくて何のことか分かりませんでした。少しわかったのは「耐えがたきをたえ、しのびがたきをしのび：」というお言葉でした。しばらくして大人の人たちが「戦争に負けたぞ！」と言いました。私たちは喜びました。戦争が終わったのならもう防空壕に入らなくてもよかったです。

私は妹の手を引いて山の上のお墓へと急ぎ、お墓の前で手を合わせて「かあちゃん、姉ちゃん、兄ちゃん。戦争は終わったよ。もう少し早く終わっていたら母ちゃんたちも死なずにすんだとにネ！」と涙を流しました。

それから間もなく「戦争はしてはならない」という声があがり、翌年十一月、「九条戦争放棄」をふくむ日本国憲法が公布されました。私たちは心の底からこのことを喜び合いました。日本の宝物として、イエエ、世界の宝物として次の世代へ引き継いでいくべきだと思います。

でも三年前、この憲法を変えて日本を再び戦争のできる国にしようという動きが始まり、その宝物がくずれそうになったのを知って、私たち爆心地域の人たちが集まり、憲法九条を守るための運動を始めました。城山商店街では「九条を守りましょう」というビラをくばり、戦争のおろかさを訴え、被爆体験には多くの人たちが耳を傾けてくださいました。

私たちは共に手を取り合い、二度と戦争のない平和な世界を作ろうと努力しながら三年目を迎えました。これからも皆さんと手をつなぎ合い、「憲法九条・戦争放棄は絶対に手放さない」という気持ちを強くもって、次の世代の子供たちにバトンタッチしていきましょう。お願いいたします。



被爆体験を語る下平さん(05/02/20)